

過去3か月の夜間（深夜除く）往診の回数（月平均）の中央値は1名、平均は2.2名、標準偏差は7.3名であった。

表 49 過去3か月の夜間（深夜除く）往診の回数（月平均）（n=356）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
356	2.2	7.3	0	1	91

表 50 過去3か月の夜間（深夜除く）往診の回数（月平均）の階級別分布（n=356）

	度数	割合
0回～1回未満	151	42.4%
1回～10回未満	192	53.9%
（うち、1回）	(92)	(25.8%)
（うち、2回）	(44)	(12.4%)
10回～20回未満	7	2.0%
20回～30回未満	1	0.3%
30回～40回未満	3	0.8%
40回～50回未満	0	0.0%
50回～60回未満	0	0.0%
60回～70回未満	0	0.0%
70回～80回未満	0	0.0%
80回～90回未満	1	0.3%
90回～100回未満	1	0.3%
100回以上	0	0.0%

過去3か月の深夜往診の回数（月平均）の中央値は0名、平均は0.9名、標準偏差は2.6名であった。

表 51 過去3か月の深夜往診の回数（月平均）（n=353）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
353	0.9	2.6	0	0	23

表 52 過去3か月の深夜往診の回数（月平均）の階級別分布（n=353）

	度数	割合
0回～1回未満	226	64.0%
1回～5回未満	116	32.9%
（うち、1回）	(69)	(19.5%)
（うち、2回）	(25)	(7.1%)
5回～10回未満	6	1.7%
10回～15回未満	0	0.0%
15回～20回未満	1	0.3%
20回～25回未満	4	1.1%

過去3か月の看取り加算の算定人数（月平均）の中央値は1名、平均は1.6名、標準偏差は4.6名であった。

表 53 過去3か月の看取り加算の算定人数（月平均）（n=363）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
363	1.6	4.6	0	1	70

表 54 過去3か月の看取り加算の算定人数（月平均）の階級別分布（n=363）

	度数	割合
0回～1回未満	181	49.9%
1回～5回未満	154	42.4%
（うち、1回）	(85)	(23.4%)
（うち、2回）	(33)	(9.1%)
5回～10回未満	15	4.1%
10回～15回未満	7	1.9%
15回～20回未満	2	0.6%
20回～25回未満	3	0.8%
25回以上	1	0.3%

過去3か月のターミナルケア加算の算定人数(月平均)の中央値は0.3名、平均は1.5名、標準偏差は4.6名であった。

表 55 過去3か月のターミナルケア加算の算定人数(月平均)(n=353)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
353	1.5	4.6	0	0.3	70

表 56 過去3か月のターミナルケア加算の算定人数(月平均)の階級別分布(n=353)

	度数	割合
0回～1回未満	199	56.4%
1回～5回未満	129	36.5%
(うち、1回)	(68)	(19.3%)
(うち、2回)	(31)	(8.8%)
5回～10回未満	14	4.0%
10回～15回未満	5	1.4%
15回～20回未満	3	0.8%
20回～25回未満	2	0.6%
25回以上	1	0.3%

過去3か月の在宅がん医療総合診療料の算定人数（月平均）の中央値は0名、平均は1.3名、標準偏差は8.4名であった。

表 57 過去3か月の在宅がん医療総合診療料の算定人数（月平均）（n=354）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
354	1.3	8.4	0	0	140

表 58 過去3か月の在宅がん医療総合診療料の算定人数（月平均）の階級別分布（n=354）

	度数	割合
0回～1回未満	281	79.4%
1回～5回未満	60	16.9%
（うち、1回）	(34)	(9.6%)
（うち、2回）	(11)	(3.1%)
5回～10回未満	2	0.6%
10回～15回未満	5	1.4%
15回～20回未満	1	0.3%
20回～25回未満	1	0.3%
25回～30回未満	0	0.0%
30回～35回未満	0	0.0%
35回～40回未満	2	0.6%
40回～45回未満	1	0.3%
45回～50回未満	0	0.0%
50回以上	1	0.3%

過去3か月の外来患者延べ人数（月平均）の中央値は850名、平均は1,007名、標準偏差は912名であった。

表 59 過去3か月の外来患者延べ人数（月平均）（n=354）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
354	1,007.4	911.9	0	850	4,815

表 60 過去3か月の外来患者延べ人数（月平均）の階級別分布（n=354）

	度数	割合
0人～1人未満	15	4.2%
1人～500人未満	102	28.8%
500人～1,000人未満	79	22.3%
1,000人～1,500人未満	73	20.6%
1,500人～2,000人未満	37	10.5%
2,000人～2,500人未満	19	5.4%
2,500人～3,000人未満	10	2.8%
3,000人～3,500人未満	13	3.7%
3,500人～4,000人未満	2	0.6%
4,000人～4,500人未満	1	0.3%
4,500人～5,000人未満	3	0.8%
5,000人以上	0	0.0%

2-3. 臨時対応事例の情報

臨時対応が行われた日時

臨時対応が行われた日時は曜日で見ると日曜日が最も多く、71回（24.0%）であった。時間帯で見ると、18時台、19時台、20時台が8%から9%前後と多くなっていた。

表 61 臨時対応が行われた日時（n=296）

	月	火	水	木	金	土	日	計	割合
24時～	0	0	0	2	1	1	3	7	2.4%
1時～	0	1	3	1	0	0	0	5	1.7%
2時～	0	0	0	3	1	1	1	6	2.0%
3時～	0	1	0	0	0	0	0	1	0.3%
4時～	0	1	0	0	1	1	0	3	1.0%
5時～	0	1	0	1	0	1	0	3	1.0%
6時～	1	0	3	3	2	2	0	11	3.7%
7時～	1	0	2	2	1	0	1	7	2.4%
8時～	1	1	1	2	1	1	4	11	3.7%
9時～	2	1	0	0	2	0	7	12	4.1%
10時～	2	3	1	4	1	0	8	19	6.4%
11時～	1	0	3	2	0	3	5	14	4.7%
12時～	1	0	0	1	0	1	1	4	1.4%
13時～	1	0	2	0	2	3	2	10	3.4%
14時～	3	4	1	0	0	5	4	17	5.7%
15時～	2	1	0	2	2	3	2	12	4.1%
16時～	2	1	0	1	0	4	4	12	4.1%
17時～	3	1	0	1	0	1	5	11	3.7%
18時～	5	5	2	1	5	3	6	27	9.1%
19時～	2	8	2	4	4	6	3	29	9.8%
20時～	4	2	3	1	6	2	7	25	8.4%
21時～	3	5	3	3	2	2	2	20	6.8%
22時～	3	2	4	1	2	2	5	19	6.4%
23時～	2	0	4	2	1	1	1	11	3.7%
計	39	38	34	37	34	43	71	296	100.0%
割合	13.2%	12.8%	11.5%	12.5%	11.5%	14.5%	24.0%		

患者の性別

男性が 153 名 (46.2%)、女性が 178 名 (53.8%) であった。

表 62 患者の性別 (n=331)

	度数	割合
男性	153	46.2%
女性	178	53.8%

患者の年齢

平均は 82.6 歳、標準偏差は 13.3 歳、中央値は 85 歳であった。

表 63 患者の年齢の記述統計 (n=304)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
304	82.6	13.3	11	85	105

5 歳ごとの年齢階級別にみると、90 歳～94 歳が最も多く、24.0%を占めていた。未成年も複数含まれていた。

表 64 患者の年齢階級別分布 (n=304)

	度数	割合		度数	割合
0 歳～4 歳	0	0.0%	65 歳～69 歳	15	4.9%
5 歳～9 歳	0	0.0%	70 歳～74 歳	29	9.5%
10 歳～14 歳	1	0.3%	75 歳～79 歳	27	8.9%
15 歳～19 歳	1	0.3%	80 歳～84 歳	52	17.1%
20 歳～24 歳	0	0.0%	85 歳～89 歳	53	17.4%
25 歳～29 歳	2	0.7%	90 歳～94 歳	73	24.0%
30 歳～34 歳	0	0.0%	95 歳～99 歳	26	8.6%
35 歳～39 歳	0	0.0%	100 歳～104 歳	7	2.3%
40 歳～44 歳	4	1.3%	105 歳以上	1	0.3%
45 歳～49 歳	1	0.3%			
50 歳～54 歳	2	0.7%			
55 歳～59 歳	4	1.3%			
60 歳～64 歳	6	2.0%			

患者の主たる疾患名

悪性腫瘍の患者が最も多く、23.0%を占めていた。難病の患者も9.5%を占めていた。

表 65 患者の主たる疾患名 (n=252)

	度数	割合
悪性腫瘍	58	23.0%
認知症	41	16.3%
脳血管疾患	43	17.1%
心不全	18	7.1%
難病	24	9.5%
その他	68	27.0%

患者の処置特性

点滴の管理を要する方が最も多く、73名(21.9%)が該当した。

表 66 患者の処置特性 (複数回答、n=333)

	度数	割合
点滴の管理	73	21.9%
中心静脈栄養	11	3.3%
透析	3	0.9%
ストーマの処置	6	1.8%
酸素療法	51	15.3%
レスピレーター	8	2.4%
疼痛の管理	49	14.7%
気管切開の処置	11	3.3%
経管栄養	50	15.0%
モニター測定	8	2.4%
褥瘡の処置	41	12.3%
カテーテル	47	14.1%

患者の要介護度

要介護 5の方が最も多く、42.6%を占めていた。

表 67 患者の要介護度 (n=298)

	度数	割合
なし	23	7.7%
要支援 1	3	1.0%
要支援 2	15	5.0%
要介護 1	17	5.7%
要介護 2	24	8.1%
要介護 3	35	11.7%
要介護 4	54	18.1%
要介護 5	127	42.6%

患者の世帯構成

既婚の子供世帯と同居している方が最も多く、30.0%を占めていた。一人暮らしの方は 49名 (15.3%) であった。

表 68 患者の世帯構成 (n=320)

	度数	割合
配偶者 (パートナー) と二人世帯	74	23.1%
一人暮らし	49	15.3%
未婚の子供と同居	51	15.9%
既婚の子供世帯と同居	96	30.0%
その他	50	15.6%

訪問診療の開始時期

2014年が最も多く、45.4%を占めていた。

表 69 訪問診療の開始年 (n=284)

	度数	割合
1993	1	0.4%
1999	1	0.4%
2000	1	0.4%
2001	1	0.4%
2002	2	0.7%
2003	2	0.7%
2004	2	0.7%
2005	1	0.4%
2006	1	0.4%
2007	6	2.1%
2008	4	1.4%
2009	9	3.2%
2010	19	6.7%
2011	21	7.4%
2012	32	11.3%
2013	42	14.8%
2014	129	45.4%
2015	10	3.5%

過去3か月で夜間休日臨時対応を行った回数

中央値は1回、平均は2.2回、標準偏差は5.1回であった。

表 70 過去3か月で夜間休日臨時対応を行った回数 (n=309)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
309	2.2	5.1	0	1.0	65

夜間休日臨時対応が発生した理由

状態急変が最も多く、220 事例（67.3%）が該当した。

表 71 夜間休日臨時対応が発生した理由（複数回答、n=327）

	度数	割合
状態急変	220	67.3%
事故	5	1.5%
患者の不安	51	15.6%
家族の不安	77	23.5%
その他	22	6.7%

連絡してきた方

同居のご家族からという事例が最も多く、60.3%を占めていた。看護師からの連絡も21.6%を占めていた。

表 72 連絡してきた方（n=310）

	度数	割合
患者本人	17	5.5%
同居のご家族	187	60.3%
別居のご家族	14	4.5%
ご近所の方	1	0.3%
看護師	67	21.6%
その他	24	7.7%

連絡を受けた時の居場所

自宅が最も多く、59.7%を占めていた。

表 73 連絡を受けた時の居場所（n=308）

	度数	割合
自宅	184	59.7%
診療所・事業所	76	24.7%
その他	48	15.6%

連絡を受けた後の対応

すぐに医師が訪問したという事例が最も多く、51.2%を占めていた。朝まで待って医師が訪問した事例は 4.7%、訪問せずに病院への救急搬送を指示した事例は 5.7%であった。

表 74 連絡を受けた後の対応 (n=297)

	度数	割合
電話で話して終了	24	8.1%
すぐに医師が訪問	152	51.2%
すぐに看護師が訪問	44	14.8%
朝まで待って医師が訪問	14	4.7%
朝まで待って看護師が訪問	2	0.7%
すぐには行かなかったが朝より前に医師が訪問	18	6.1%
すぐには行かなかったが朝より前に看護師が訪問	5	1.7%
訪問せずに病院への救急搬送を指示	17	5.7%
その他	21	7.1%

※複数の対応が当てはまる場合は、最初の対応について回答するよう依頼した。複数の選択肢が選ばれている場合は集計対象から除外した。

連絡を受けた後の対応で、すぐに医師もしくは看護師が訪問したと回答した事例について、その理由を尋ねたところ、緊急処置が必要な状態が当てはまる事例が最も多く、81名(41.3%)が該当した。

表 75 すぐに訪問した理由 (複数回答、n=196)

	度数	割合
生命に関わる状態	60	30.6%
緊急処置が必要な状態	81	41.3%
疼痛コントロールが必要な状態	11	5.6%
本人の強い希望	23	11.7%
家族の強い希望	49	25.0%
その他	22	11.2%

※連絡を受けた後の対応で「すぐに医師が訪問した」もしくは「すぐに看護師が訪問した」と回答した事例に限って集計した。

患者の転帰

在宅療養を継続した患者が最も多く、57.8%を占めていた。死亡は56名であった。

表 76 患者の転帰 (n=306)

	度数	割合
在宅療養継続	177	57.8%
救急搬送後外来受診で帰宅	7	2.3%
救急搬送後入院	51	16.7%
施設入所	2	0.7%
死亡	56	18.3%
その他	13	4.2%

医学的見地からみた臨時対応の必要性

医学的見地からみて臨時対応は必要ではなかったという事例も19例(6.1%)存在した。

表 77 医学的見地からみた臨時対応の必要性 (n=309)

	度数	割合
はい	290	93.9%
いいえ	19	6.1%

実際の対応以外に取り得た方法

実際の対応以外に取り得た方法では、「訪問せずに病院への救急搬送を指示」が最も多く、83例(25.4%)であった。「電話で話して終了」も40例(12.2%)が該当した。

表 78 実際の対応以外に取り得た方法 (複数回答、n=327)

	度数	割合
電話で話して終了	40	12.2%
すぐに医師が訪問	73	22.3%
すぐに看護師が訪問	63	19.3%
朝まで待って医師が訪問	35	10.7%
朝まで待って看護師が訪問	13	4.0%
すぐには行かなかったが朝より前に医師が訪問	27	8.3%
すぐには行かなかったが朝より前に看護師が訪問	7	2.1%
訪問せずに病院への救急搬送を指示	83	25.4%
その他	37	11.3%

2-4. 臨時対応事例に関する事前の取り決め

夜間・休日の臨時連絡を受ける体制の取り決め

事前に取り決めがあったのは 283 例（88.7%）であった。

表 79 夜間・休日の臨時連絡を受ける体制の取り決めの有無（n=319）

	度数	割合
はい	283	88.7%
いいえ	36	11.3%

患者・家族から最初の連絡を受ける機関について尋ねたところ、診療所が 136 例（51.5%）、訪問看護ステーションは 104 例（39.4%）であった。

表 80 患者・家族から最初の連絡を受ける機関（n=264）

	度数	割合
診療所	136	51.5%
訪問看護ステーション	104	39.4%
その他	24	9.1%

※夜間・休日の連絡を受ける体制に関する取り決めがあった事例に限って集計した。

最初に連絡を受ける職種について尋ねたところ、看護師が最も多く、52.5%を占めていた。

表 81 患者・家族から最初に連絡を受ける職種（n=265）

	度数	割合
医師	108	40.8%
看護師	139	52.5%
事務スタッフ	13	4.9%
その他	5	1.9%

※夜間・休日の連絡を受ける体制に関する取り決めがあった事例に限って集計した。

最初の連絡を受けた方が判断に迷った場合の対応方法について尋ねたところ、主治医へ連絡するのが最も多く、78.4%を占めていた。

表 82 患者・家族から最初の連絡を受けた方が判断に迷った場合の対応方法 (n=264)

	度数	割合
主治医へ連絡	207	78.4%
訪問看護ステーションの管理者へ連絡	14	5.3%
当直医へ連絡	7	2.7%
病院へ搬送する	16	6.1%
その他	20	7.6%

※夜間・休日の連絡を受ける体制に関する取り決めがあった事例に限って集計した。

夜間休日臨時対応できる医師の数

夜間休日臨時対応できる医師の有無について尋ねたところ、複数人対応できるという診療所は66か所(21.0%)で、一人という診療所が214か所(67.9%)であった。

表 83 夜間休日臨時対応できる医師の有無 (n=315)

	度数	割合
複数人	66	21.0%
一人	214	67.9%
誰もいない	35	11.1%

対応事例に夜間休日臨時対応できる医師が複数いたという診療所にその数を尋ねたところ、中央値2名、平均値は3.1名であった。そのうち、非常勤医師の数は中央値0名、平均値1.0名、臨時対応のみ対応できる医師の数は中央値0名、平均値0.2名であった。

表 84 夜間休日臨時対応できる医師の人数 (n=64)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
64	3.1	1.9	1	2	10

※夜間休日臨時対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

表 85 夜間休日臨時対応できる医師の人数 (n=315)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
315	1.33	1.28	0	1	10

※対応できる医師が「誰もいない」、「一人」という回答も加えた。

表 86 夜間休日臨時対応できる医師の人数の度数分布 (n=315)

	度数	割合
0名	35	11.1%
1名	214	67.9%
2名	37	11.7%
3名	14	4.4%
4名	5	1.6%
5名	1	0.3%
6名	2	0.6%
7名	5	1.6%
8名	1	0.3%
9名	0	0.0%
10名	1	0.3%

表 87 夜間休日臨時対応できる医師（非常勤）の人数 (n=43)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
43	1.0	1.4	0	0	6

※対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

表 88 夜間休日臨時対応できる医師（非常勤）の人数の度数分布 (n=43)

	度数	割合
0名	23	53.5%
1名	10	23.3%
2名	5	11.6%
3名	2	4.7%
4名	1	2.3%
5名	1	2.3%
6名	1	2.3%

※対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

表 89 夜間休日臨時対応できる医師（臨時対応のみ）の人数（n=38）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
38	0.2	0.6	0	0	2

※対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

表 90 夜間休日臨時対応できる医師（臨時対応のみ）の人数の度数分布（n=38）

	度数	割合
0名	32	84.2%
1名	3	7.9%
2名	3	7.9%

※対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

担当医師間での夜間休日の当番順について尋ねたところ、特に決めていないという診療所が最も多く、32名（41.6%）であった。

表 91 担当医師間での夜間休日臨時対応の当番順（n=77）

	度数	割合
1日毎	6	7.8%
2-3日毎	4	5.2%
4-6日毎	2	2.6%
1週間毎	10	13.0%
2週間毎	2	2.6%
1ヶ月毎	3	3.9%
特に決めていない	32	41.6%
その他	18	23.4%

※対応できる医師が複数いた診療所に限って集計した。

所属先以外の機関との取り決め

取り決めがあったという回答が 88 名 (27.8%) であった。

表 92 所属先以外の機関との取り決めの有無 (n=316)

	度数	割合
はい	88	27.8%
いいえ	228	72.2%

取り決めをしていた機関の種別について尋ねたところ、病院と取り決めをしていたのが 44 名 (50.0%)、診療所が 35 名 (39.8%) であった。

表 93 取り決めをしている機関の種別 (複数回答、n=88)

	度数	割合
診療所	35	39.8%
病院	44	50.0%
その他	5	5.7%

※所属以外の機関と取り決めをしていた方に限って集計した。

取り決めの内容について尋ねたところ、「特定の医療機関 (別法人) と契約し、夜間休日対応の一部を依頼している」という回答が最も多く、31.0%を占めていた。

表 94 取り決めの内容 (n=87)

	度数	割合
特定の医療機関 (別法人) と契約し、夜間休日対応を完全に依頼している	1	1.1%
特定の医療機関 (別法人) と契約し、夜間休日対応の一部を依頼している	27	31.0%
同一法人の一機関が、夜間休日の対応を全てすることになっている	2	2.3%
同一法人の一機関が、夜間休日対応の一部をすることになっている	9	10.3%
複数機関の医師で輪番制を採って夜間休日の対応をすることになっている	14	16.1%
その他	34	39.1%

※所属以外の機関と取り決めをしていた方に限って集計した。

所属先以外の機関との順番の回し方について尋ねたところ、「特に決めていない」という回答が最も多く、次に多かったのは「年末年始・出張時など限られたときだけ依頼」であった。

表 95 所属先以外の機関との順番の回し方 (n=79)

	度数	割合
1日毎	3	3.8%
2-3日毎	0	0.0%
4-6日毎	0	0.0%
1週間毎	5	6.3%
2週間毎	0	0.0%
1ヶ月毎	0	0.0%
全てお願いしている	5	6.3%
特に決めていない	30	38.0%
年末年始・出張時など限られたときだけ依頼	25	31.6%
その他	11	13.9%

※所属以外の機関と取り決めをしていた方に限って集計した。

患者・家族に対する夜間休日の連絡方法の説明

事前に説明していたという医師は 300 名 (94.3%) であった。

表 96 患者・家族に対する夜間休日の連絡方法の説明の有無 (n=318)

	度数	割合
はい	300	94.3%
いいえ	18	5.7%

患者・家族に対する予測される状態と対応方法の説明

事前に説明していたという医師が最も多く、280 名 (88.1%) であった。

表 97 患者・家族に対する予測される状態と対応方法の説明の有無 (n=318)

	度数	割合
はい	280	88.1%
いいえ	38	11.9%

対応方法を説明していた職種について尋ねたところ、医師が 87.8%を占めており、看護師が説明していたのは 11.7%であった。

表 98 予測される状態と対応方法を説明していた職種 (n=222)

	度数	割合
医師	195	87.8%
看護師	26	11.7%
その他	1	0.5%

※患者・家族に予測される状態と対応方法を事前に説明していた方に限って集計した。

患者の説明理解度について尋ねたところ、「とてもよく理解していた」と「よく理解していた」が 37.3%を占める一方、「全く理解していなかった」、「あまり理解していなかった」という回答も 37.2%を占めていた。

表 99 予測される状態と対応方法に関する説明の理解度・患者 (n=274)

	度数	割合
全く理解していなかった	50	18.2%
あまり理解していなかった	52	19.0%
どちらともいえない	70	25.5%
よく理解していた	87	31.8%
とてもよく理解していた	15	5.5%

※患者・家族に予測される状態と対応方法を事前に説明していた方に限って集計した。

家族の説明理解度について尋ねたところ、「とてもよく理解していた」と「よく理解していた」が 78.6%を占めていた。「全く理解していなかった」という回答はなかったが、「あまり理解していなかった」という回答は 20 名 (7.2%) であった。

表 100 予測される状態と対応方法に関する説明の理解度・家族 (n=276)

	度数	割合
全く理解していなかった	0	0.0%
あまり理解していなかった	20	7.2%
どちらともいえない	39	14.1%
よく理解していた	167	60.5%
とてもよく理解していた	50	18.1%